

事業報告書

1 支援団体名	平成 24 年度 九州河川技術研修実行委員会								
2 事業名称	平成 24 年度 九州河川技術研修事業								
3 実施日時	平成 25 年 2 月 7 日～8 日								
4 実施場所	ホテルセントラーザ博多（〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街 4-23）								
5 事業目的、内容及びその効果	<p>（事業実施状況・内容）＊できるだけ詳細に</p> <p>従来から河川技術に関する研修は、中央では、国土交通大学校での研修や公益社団法人日本河川協会の「水防研修・河川管理研修・河川講習会」などの研修があり、地方では国土交通省職員向けの地方整備局単位の研修がある。</p> <p>しかし、中央での研修は全国版であり、河川に関わる話題に地域の特徴が出せず、また、上京する必要がある、予算や業務状況等により、各地から容易に参加出来ないなどの課題がある。そこで、各地域が抱えている課題等やワークショップ方式を取り入れた地域版での河川技術研修を実施することは重要である。</p> <p>そこで今回、九州地方において「九州河川技術研修実行委員会」を設立し、河川関係の業務を担当する国土交通省・都道府県・市町村の職員及びコンサルタント等の諸団体の技術者を対象に、今後の河川事業実施上の課題と問題点について、共に学び議論する場を設けることにより、地域における事業実施に必要な実務的な知識を習得させ、河川に関する業務や河川事業の強化・充実に役立てることを目的とし実施した。</p> <p>研修は 2 日間で行われ、参加者は約 300 人にもなった。</p> <p>1 日目は「近年の豪雨災害で明らかになった課題とその対策」と題して、九州大学特命教授・名誉教授から講話を頂いた。また、災害現場からの報告と題して 3 テーマ（防災情報の収集・提供、緊急復旧工事、自然環境に配慮した河川整備）について、6 機関から発表がありアドバイザーからの質問やアドバイスを頂くとともに、会場との意見交換を行った。</p> <p>2 日目の午前中は、分科会と称し前日発表のあった 3 テーマについて 6 班に分け、国・県・市の河川行政を担当する研修生が一つのテーブルで討議し、その結果を各班毎に発表した。また、アドバイザーからの質問やアドバイスを頂くとともに、会場との意見交換を行った。</p> <p>午後からは、災害復旧の現場視察を行った。現場では、災害時や復旧までの状況についてパネルや資料で研修生に説明を行った。</p> <p>詳細は、別紙「平成 24 年度 九州河川技術研修計画」参照</p>								
6 参加内訳	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">総人数</td> <td style="text-align: right;">312 名</td> </tr> <tr> <td>（1）主催者参加</td> <td style="text-align: right;">54 名</td> </tr> <tr> <td>（2）日本人参加（（1）を除く）</td> <td style="text-align: right;">258 名</td> </tr> <tr> <td>（3）外国人参加（（1）を除く）</td> <td style="text-align: right;">0 名</td> </tr> </table>	総人数	312 名	（1）主催者参加	54 名	（2）日本人参加（（1）を除く）	258 名	（3）外国人参加（（1）を除く）	0 名
総人数	312 名								
（1）主催者参加	54 名								
（2）日本人参加（（1）を除く）	258 名								
（3）外国人参加（（1）を除く）	0 名								
7 今後の方針	河川に関わる話題に地域の特徴やアンケートによる意見等を取り入れ、今後の河川事業実施上の課題と問題点について共に学び議論する場を設け、地域における事業実施に必要な知識を習得させ、河川に関する業務や河川事業の強化・充実に役立つ研修を実施していく。								

□ 支援金対象事業に係る資料、写真など



開講挨拶 樋川実行委員長



開講挨拶 九州地整 植田河川部長



講話 小松九州大学名誉教授



会場との意見交換



災害現場からの報告 (白川の事例)



災害現場からの報告 (花月川の事例)